

令和6年2月1日

保護者の皆様

千葉市立本町小学校
校長 久保木 修

令和5年度 学校評価について

節分の候、保護者の皆様には日頃より本校の学校教育にご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。また、この度はお忙しい中、学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございます。ここに、結果と考察をまとめましたので、ご報告させていただきます。なお、本年度の設問1～8は、本校のめざす児童像「やさしく（徳）、かしこく（知）、たくましく（体）」が、どの程度達成できているかを確認するための設問となっています。設問9以降は、相談のしやすさや教育環境の整備、特色ある教育活動など、学校として常に大切にすべき項目についての設問となっています。（各設問文は、対象により表現が異なります。）

学校評価アンケートの結果概要と考察

【調査対象と回答数】 保護者 284、 児童 296、 教職員 16

【各項目の4段階評価の平均値】

4：よくできている 3：概ねできている 2：あまりできていない 1：改善を要する

No	評 価 内 容	保護者		児童		教職員	
		5年度	4年度	5年度	4年度	5年度	4年度
1	学校は、子どもたちが気持ちのよいあいさつや返事ができるよう、自ら実践し、指導している。	3.4	3.5	3.4	3.4	3.2	3.3
2	学校は、道徳教育に力を注ぎ、子どもに思いやりの心や規範意識を育てている。	3.3	3.4	3.3	3.4	3.0	3.1
3	学校は、教育活動において、人権を尊重する姿勢で子どもの指導に当たっている。	3.4	3.4	↓ 3.3	3.5	↓ 3.1	3.3
4	学校は、学習への関心・意欲を高め、望ましい学習習慣を身に付けられるように指導している。	3.3	3.3	3.2	3.1	3.0	3.1
5	学校は、学習内容が分かりやすく、楽しい授業をしている。	3.4	3.4	3.4	3.4	2.9	2.8
6	学校は、進んでノートをとったり、発表したりできるよう指導している。	3.3	3.4	2.9	3	2.7	2.7
7	学校は、学習活動においてギガタブを効果的に活用している。	3.3	3.4	↓ 3.5	3.7	2.9	2.8
8	学校は、休み時間などによく遊んだり、運動したりするよう指導している。	3.4	3.5	3.4	3.5	↑ 2.8	2.6
9	学校は、保護者にとって連絡や相談がしやすく、それらに適切に対応している。	3.4	3.4	3.6	3.5	2.9	3.0
10	学校は、明るく清潔な学校づくりをめざし、教室環境などを整えている。	3.3	3.4	3.5	3.6	3.0	3.0
11	学校は、廊下・階段・校庭など校内で、子どもたちが安全に過ごせる環境を整備している。	3.3	3.4	3.5	3.6	↑ 3.2	3.0
12	学校には、地域や学校の特色を生かした自慢できる教育活動や行事がある。	↓ 3.3	3.5	3.5	3.5	↑ 3.5	3.0
13	学校は、学校だより・学年だより・学級だより等を通し、学校での取組や子どもたちの様子を地域や保護者に分かりやすく伝えている。	3.4	3.5	3.4	3.4	3.1	3.0
14	学校は、保護者や地域の人などが、積極的に教育活動にかかわれるよう工夫している。	3.3	3.3	/	/	↓ 2.8	3.1

※昨年度比較により、2ポイント以上上昇した項目には↑、降下した項目には↓を示してあります。

【考 察】

保護者アンケートについては、どの設問も 3.3～3.4 ポイントという結果でした。これは、9 割以上の方から、4 または 3 の肯定的評価をいただいたということで、好ましい結果であるにとらえています。しかし、昨年度の結果と比較すると、昨年度と同じまたはマイナス 1～2 ポイントとなっており、上昇した項目はありませんでした。この点は、真摯に受け止め、来年度に向けて改善を図る所存です。その中でも設問 12 の「学校には、地域や学校の特色を生かした自慢できる教育活動や行事がある」が昨年度より 0.2 低い評価となっております。これは、コロナ禍前に行っていた行事を少しずつ戻しているものの、すべてが元に戻っておらず、縮小の形になっているものがあることが影響していると考えます。来年度以降も、本町小の子供たちにとって何が必要か精査し、ウィズコロナの時代の実践ができるよう考えながら教育活動を進めてまいります。

児童のアンケートについては、2.9～3.6 ポイントと項目によって幅が見られました。設問 3 と設問 7 については昨年度より 2 ポイント下がっています。設問 3 の「学校は、教育活動において、人権を尊重する姿勢で子どもの指導に当たっている」については、児童向けの設問文は「自分は、相手の気持ちを考えて、友達と仲よくしている」という表現になっており、児童自身が、自分の振る舞いについて反省している様子がうかがえます。発達段階において、友達とのかかわりを通して、自己中心的な考えから少しずつ周りへの配慮ができるようになる段階が小学生であることを考えると、よい表れであるのではないかと思います。設問 7 の「学校は、学習活動においてギガタブを効果的に活用している」については、文房具としてのギガタブが定着したことにより、評価が下がったものと思われます。設問 9 の「学校は、保護者にとって連絡や相談がしやすく、それらに適切に対応している」については、児童向けの設問は「自分が困っているときなど、先生はよく話を聞いてくれる」という表現になっています。こちらは、昨年度より 0.1 ポイントですが評価が上昇しました。これは、子供たちが安心して学校生活を送ることができていることにつながり、大変うれしい結果です。さらに、安全で安心な学校づくりに努めてまいります。また、概ね良好とはいえ、少数でも 1 や 2 に付けている児童や保護者がいることを重く受け止め、さらにきめ細かな指導を心がけてまいります。

教職員のアンケートについては、保護者・児童に比べ、全体的に数値が低くなっています。全体的に昨年度と同様な数値となっております。設問 12 「学校には、地域や学校の特色を生かした自慢できる教育活動や行事がある」は、5 ポイント上昇しました。これは、総合的な学習の時間を通して、地域の方とかかわり、ともに学習を作り上げたことや、PTA 主催による親子遊びの集いで、地域の様子をじっくり見て回ったことなどがきっかけになっているものと推察します。今後も、地域に根差した教育が進められるよう、邁進してまいります。設問 3 は、児童のアンケートでも評価が下がったのと同様に、職員の評価も 0.2 ポイント下がっています。これは、子供たちの思いやりの気持ち等を十分に育て切れていないという反省の気持ちからだと考えます。このことから、子供の基本的な人権を守ることを大前提とし、人権教育（道徳教育）の充実を図っていきます。

自由記述の主な記載内容と回答

本年度は、48 名の保護者の方が自由記述欄にご意見を寄せてくださいました。学校行事を再開する中で、お気づきになられたことという問いに対し、「今年と同じ程度の内容でよい」「運動会は午前中で終わるのがちょうどよい」「親子遊びの集いは子供も大人も地域を知ることができ親子で楽しめる」などの肯定的なご意見を多くいただきました。一方でコロナ前の本町小の様子をご存じの方からは、「行事が縮小され、本町らしさがなくなった」「以前のようにすべて戻してほしい」という、ご意見もいただいております。給食を前向きでなく、机を向かい合わせて食べられるようになったらなど、まだまだこれから考えていかなければならないことは山積しておりますが、まずは目の前の子供たちが、安全安心に学校生活を送れるよう努めてまいります。

名前を呼び捨てにするのはどうかというご意見もいただきました。学校では、一人一人の人権を尊重し名前には「さん」を付けて呼ぶようにしています。教師と児童、友達同士、上級生と下級生すべてにおいてです。相手を尊重し大切に思う気持ちを引き続き育ててまいります。

児童が安全で楽しく、充実した学校生活を送れるようにするためには、保護者の皆様との連携、協力が欠かせません。気になる点やご心配なことがございましたら、お手数でも学校にご連絡をいただければ幸いです。引き続き、ご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

